目次
Contents

同経会会長からのご挨拶 3
経済学部長からのご挨拶 4
千 玄室 氏の特別インタビュー 5
同経会イベント案内 14
卒業生からの便り 15
退任の先生のご挨拶 20
同経会賞受賞者からの便り 21
現役学生が語るわがゼミ 23
編集後記 33
同経会役員名簿 34

写真協力：山本 清さん（昭和40年卒）・松島 直美さん（事務局）

同経会会長からのご挨拶

同経会会長　田堂 哲志

私たちの先輩方が同志社大学を、経済学部を、さらに同窓の仲間に思いを馳せて設立された同経会は60年の歴史を紡いでまいりました。その連綿と続く活動は途絶えることなく多くの貢献として実を結んでいます。

今春、経済学部を卒業された皆様、「ようこそ同経会へ！」。コロナ禍で大変不自由な中で学業を修められ新社会人として大きな期待を抱いての門出を迎えられたこと、お喜び申し上げます。

さて、2021年は3度に亙るパンデミックの影響で社会、経済活動が厳しく制約された1年でした。考えてみれば、規制はコロナ感染者数の増減で強化したり、緩和して一気に経済、社会活動が活発になるなど言わば短期的な数値の推移に左右されることに終始してきたように感じます。決して合理的に世の中が対応できたとは言えません。しかしその環境に則した様々な工夫ややり方が生まれ定着しようとしています。従来を取り戻すには至っていませんが是非はともかく一歩前に踏み出す機運が高まっているのではないでしょうか。

今年、2022年はどのような年になるでしょう。年初から変異ウイルス、オミクロン株はとどまることなく猛威をふるっています。世界に目を向ければ米中2大国は自国での大きなイベントを控え、その結果次第では世界に大きなインパクトを与える可能性があります。一方、企業に目を向ければ資本合理主義からサステイナブル資本主義へ転換しGX、DXによる成長戦略を求められています。職場においてもメンバーシップ型からジョブ型への働き方の改革もそうです。所謂、見通しのつかない環境下でターニングポイントとなる大きな動きがある年になるのではないでしょうか？

このように先行きの読めない時代では、なかなか過去の成功事例は通用しません。求められる人材が従来と違うのです。理科系だろうと文科系だろうと関係ありません。自分の価値を高める努力を続ける人材、自分の頭で物事を考え相手に伝えるコミュニケーション能力のある人材です。

今、人生100年時代と言われています。私の周りを見渡しても高齢で元気な方は本当に大勢おられるので実感できます。定年は70歳まで延長、公的年金は75歳からの給付開始となりそうなのは決して不思議な話ではないでしょう。現役社会人として今迄では考えられない長距離レースの中でやり抜くための準備が必要かもしれません。

同経会においても新しい変革の波を創造して会員の方にとってもっとメリットのある同窓会に価値を高めてまいります。ご支援宜しくお願い申し上げます。

今年1年が皆様にとって良い年となりますことを祈念申し上げます。

経済学部長からのご挨拶

経済学部長　宮本 大

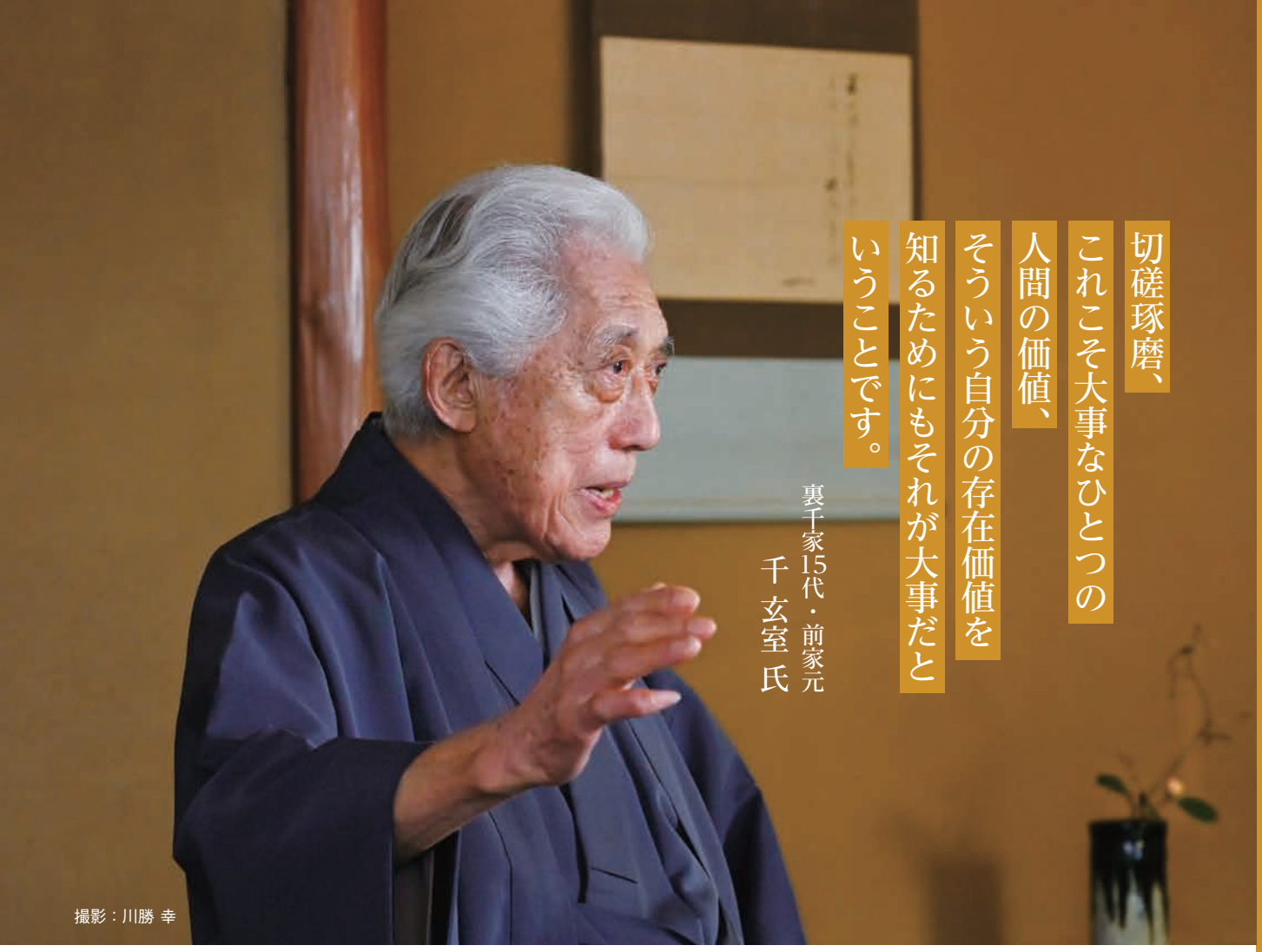
２０２２年度より経済学部長を務めることとなりました宮本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。同経会の皆さまにおかれましては、平素より経済学部・経済学研究科の教育ならびに研究活動に多大なるご支援を賜りましてありがとうございます。心より御礼申し上げます。

このコロナ禍の２年間において、同経会の皆さまにサポートいただいておりました取り組みも大きく影響を受けました。とりわけ影響が大きかったのは海外インターンシッププログラムです。２０２０年度以降、実施できておらず、また今年度も実施を見送らざるを得ない極めて残念な状況にあります。

海外インターンシップは、単に、仕事の場を体験するだけではなく、グローバル化する社会を踏まえて海外で働くこと、日本とは異なる文化や生活を体験するといったプログラムとなっています。経済学部では人材養成の目的として、「国際化する経済・社会の状況に対応し、広く社会のために行動しうる、自治自立の人物を養成すること」と掲げており、この目的の達成に、海外インターンシップは非常に重要な役割を果たしております。また在学生だけでなく、本学経済学部を志望する高校生にも高く評価されております。コロナ禍が落ちつきましたら是非とも再開し、このプログラムを通じて、これまで以上に学生と同経会の皆さまとのネットワークを強化させていただければと思います。

その代わりという訳ではありませんが、学部生・大学院生のキャリア形成支援の一環としてＡＬＬ ＤＯＳＨＩＳＨＡ教育推進プログラムの「産学連携キャリア形成プログラム」を、コロナ禍の現在でも同経会の皆さまからのサポートをいただきながら実施し、今年度もさらに内容を改善しながら進めてまいります。海外インターンシップの実施が困難な状況において、このプログラムの遂行は学生と同経会の皆さまとを結ぶものと期待しています。

繰り返しになりますが、経済学部では、学生たちに「広く社会のために行動しうる、自治自立の人物になること」を求めています。単に知識を蓄積するだけでなく、学んだ知識を利用して社会に貢献することが大切です。しかし学生自身の力だけで知識を活用し、社会に貢献するところまで到達するのは中々難しいことです。教職員がそのためのサポートを行うのはもちろんのことですが、社会でご活躍されている同経会の皆さまのサポートが大きな力となることは明らかです。期待やお願いばかりで大変恐縮ではございますが、同経会の皆さまにおかれましては、経済学部・経済学研究科のこれまでの取り組みのみならず、また新しい取り組みにもご理解を頂き、なお一層のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



撮影：川勝 幸

切磋琢磨、これこそ大事なひとつの人間の価値、そういう自分の存在価値を知るためにもそれが大事だということです。

裏千家15代・前家元
千 玄室 氏

先輩方からお話をお伺いする特別インタビュー。

今回は同経会60周年を記念し、第4代会長を務められ現在顧問の千 玄室 氏にお伺い致しました。

千 玄室 氏プロフィール

1923年京都生まれ。茶道裏千家15代・前家元。同志社大学卒業。ハワイ大学修学、韓国・中央大學校大学院博士課程終了。文学博士。1949年に大徳寺後藤瑞巌老師のもとで参禅得度。1964年に裏千家今日庵 庵主として宗室を襲名。2002年に嫡男に家元を譲座し、玄室と改名。文化勲章受章・レジオン・ドヌール勲章コマンドゥール(仏)等受章・外務省参与・ユネスコ親善大使・日本国連親善大使・公益財団法人日本国際連合協会会長

同志社との馴れ初めといいますか、その辺を最初にお聞かせ願えたら。

ご承知のように、新島襄先生と新島八重刀自お二方と私の祖父であります13代圓能斎家元との交わりから始まるわけですね。

明治時代に京都で『同志社』を新島襄先生が創設なさって、その時に新島八重刀自が「やはりこれからの女性というものに対して地位の向上、それから教育、躾というものを非常に大事にしなければいけない」と考えられた。

【刀自】
年輩の女性に対して親しみを込めて使う呼称。また、家庭に入った主婦。
古くは宮中で雑務を行なっていた女官や、貴族に仕えて家事をうけ負う女性のことを表した。

明治維新後に西洋文明がどんどん入ってくる、日本の古来の躾とかいわゆる『日本のよさ』というものがそれによって壊されるということを大変苦慮なさって、圓能斎のもとに入門されたのですね。

そこからが始まりなのですね。そして新島八重刀自はお茶を熱心にお稽古なさったわけでございます。

とくに新島襄先生も大変理解されて、それとともに「同志社も英学校という姿から一つの形が、学校教育としてできあがっていく、そういう明治時代は外国に憧れるということはいいけれど、それとともに日本の魂を忘

れてはならない、それには茶道が一番適している」ということを新島襄先生も新島八重刀自もおっしゃってましたけどね。

そういうところで私の父もそういう縁から同志社の英学校へ進みまして、5年間同志社で学んだ。父の話によりますと、自分がやはり京都教育大学附属小学校から同志社へ進むということに対して大変抵抗があったらしいのですね。キリスト教の学校ということでですね、私どもの家はご承知のように茶の家でありますけども、実は明治維新までは武家であって茶家であった。だから武家の精神とそこに茶の道の魂を結びつけてずっとやってきたものですから、父にとりましても同志社へ行くというのは最初は大変抵抗があったらしいのです。でも新島八重刀自にお目にかかってその教育方針に大変共鳴し、父は英学校へ進むことができたわけですね。

そういうことで八重刀自は女性として私の祖父の13代圓能斎の弟子として、色んな面で例えば「京都の女学校へ躾とともにお茶の稽古」と考え、同志社にもそれを取り入れていかないといけないということで、のちに女子学校ができるわけです。

そういうわけで、新島先生の旧宅には今校友会館の横にございますが、旧宅の茶室寒梅軒、同志社の茶道部が校内へ移しまして、それをずっと今も管理しておるわけでございますね。

そういうご縁があったものの、私も京都教育大学附属小学校へ通いました。当時の附属小学校は英才教育をする学校で、府立第一中学校へ当然みんな進んでいく。

【京都府立一中】
現、京都府立洛北高等学校・附属中学校の前身。1870年に日本最古の旧制中学校として創立された京都府中学校が、1901年に改称し京都府立第一中学校となる。1918年に再び改称し京都府立京都第一中学校に。1948年に京都が高校三原則のモデルケースとされたため、高校再編成のため実質的な廃校となった。1950年に再興し、現在に至る。

私もそのつもりで友達らと勉強しておりましたが、5年生のある日父に呼ばれて、「勉強してる?」「勉強しております、一中を受けたいと思います。」そうしたら父が、

「そんなことより相談があるんだけれど、あなたは同志社に行きなさい。」と。

「はぁ、どうしてですか」と尋ねたところ「同志社は新島襄先生という大変素晴らしい先生が創られた学校で、

私もそこで学んだ。新島八重刀自はうちの大切なお弟子であって、大変お茶を理解してもらっている女性である。だからそういう意味において同志社へ行って学ぶことは決して無駄なことではない。だから同志社へ行きなさい。」

それですぐごと母の元へ行って「こう言われたのだけれども私は嫌だ、一中に行きます」と言った。そうしたらあくる日に母が、「昨日お父さんと相談したけれど、あなたは長男だしそういう意味においてこのうちを継いでいかなければならない。だから継いで行く以上はやはりお父さんの意思通り同志社へ行きなさい。決して同志社へ行って悪いことはない、一中以上に大きな学びを得るよ」と母が言ってくれましたので、学校に行って友達に「同志社を受けることにした。」「えーっ」と驚かれました。

みな一中、二中、三中へ行く友達が多く、東京に行く友達もいました。仲のいい友人が、「実は僕も同志社へ行けと言われた」と。なぜと聞いたら、「僕のうちもキリスト教なのでやっぱり同志社がいい、千やん一緒に行こや」と清田という友人がそう言うもので、それなら同志社を受けようと。それで昭和11年、同志社の試験を受けまして合格いたしました。

それから同志社へ通うことになりました。当時は同志社中学校といいましたね、中学もみな旧制ですから5年間。中学校というのは、同志社だけは中学だったのです。校長ではなく学長で、野村仁作という非常に素晴らしい海軍の軍人、海軍大佐がいらっしゃいまして、素晴らしい人格者でクリスチャンだった。その奥さんと私の母が友人でございまして、家族ぐるみでつきあっているということもありました。

同志社中学に入ってとにかく1年の時からチャペルへ行

かなくてはならない。2年生の最優等生が彰栄館の鐘をつけるのですよね。最優等生の生徒がチャペルの紐をひいて彰栄館の鐘が鳴って、私たちはチャペルへ8時15分に必ずチャペルに行く。1年生から5年生まで皆色分けのカードをもらってるのですよ。私たち1年生は白のカードを持って、初めてチャペルに入り「何事だ」と思ったらまず讃美歌を歌わされる、牧師のお説教が始まる。何しろ30分くらいの朝礼でしたね。そこから出て各クラスに分かれて勉強するわけですが、キリスト教の強制ではないけども、非常に素晴らしい何か、ちょっと西洋風でした。

クラスメイトも我々日本人だけではなくて、ハワイからの二世とか朝鮮（当時朝鮮でした）、台湾、それから満州国からみな留学して参りました。そして北寮という寮がありましてねぇ、この寮もまた素晴らしいのですよ。ちょうど今同志社の学生会館が建っている、あの辺りが北寮という寮がありました。それからもうひとつハワイ寮という、同志社を卒業したハワイの面々。それが寄付してできた御所のちょうど東側に、今もございますよね、それができたりしました。大体みな留学生たちは北寮などに住んでいたわけです。

当時昭和11年に私が同志社に入って一番驚いたのは、他の中学校では教えられないですが、まず英会話なのですよね。アメリカン・ボードから随分アメリカの先生が来てました。二世の黒川先生はじめ、女性のワーレン先生とか。朝はまず英会話の時間から始まります。「グッドモーニング」と入ってこられて、みなが起立して「グッドモーニング」、それで着席。そういうことで1年生の時から英語を非常によく学ばさせてもらった。

それから第二に聖書の時間というのがあった。バイブルを開いて、旧約聖書、新約聖書、その聖書をずっと学ぶわけですね。私たちにとりましては新しいひとつの目覚めですね。しかも武道の柔道、剣道どちらかを選ぶ。道場が今も建ってますけど、北の端にグラウンドがあって、その端に武道場があった。そこで、1年生から5年生までは皆武道の時間が必ずあり、そこで柔道、剣道を学ぶ。

そういうような、文武両道のところへもってきて、キリストの教え、それから非常に驚いたのが、新島襄先生の教えですね、先生が志を立ててアメリカにいらっしゃった、そのときに作られた漢詩などをですね、随分言わされた。

「男子志を立てれば、千里なお行かん。風雪にたへ、しかもその風雪に苦しむなかれ、家をおもう。」

私は忘れませんけど、そういうことを一番最初に教えられましたね。「同志社というのは、良心を充満する丈夫、それを育てるところだ」と。なんだかわからないけど、「すごいな」と思いましたね。やっぱりこれは新島襄先生の母校でもありますアメリカのアーモスト大学でもあり、大変アメリカとの関係が深い、そういうことも認識してまいりました。

そのうちにだんだん支那事変が始まっていく、盧溝橋事件が始まって、どんどん戦時的ないわゆる軍国主義的な風潮になる。それにつれて同志社は軍部から睨まれてきたわけですね。道場には神棚がないのですよ。道場といったら神棚は必ずある。私、1年に入ったときに、思いました。「神棚がない。」「教会があるから、チャーチがあるから。」そういうことが事件になったりしましてねぇ、大変でした。軍部から睨まれて、「これは大変な学校に入学したな」と実は思ったのです。将来軍人になるかもしれないのに。

それでとにかく中学の5年間というものは、勉学もありましたが、米国からの先生方も開戦当時まではいらっしゃいましたが、開戦と同時に最後の船が出て、みなさん帰国された。二世の人達は残った者もおりましたし、帰った人達もおりました。「これは敵味方にわかれるのかな」と。

私が一番感激したのは中学5年生のときが昭和15年で、紀元二千六百年。この二千六百年というのは、大変な事でしたね。

このときは、提灯行列したりして、いよいよ「開戦だ」となり、そして中学4年生のころには、クラスから飛行予科練習生というのに志願して行った人達もいましたし、クラスメイトがだんだん減ってきている。「私ものるか」

と思ったけども、野村先生やみなさんが、「あんたは伝統ある千家を継がなきゃいかん、軽挙妄動するなかれ」と言われて、それで東京へ行って勉強しようと、東京の学習院へ、そしてまぁできるなら別の大学を受けようと思ったのですが、私の母は仙台からまいりましたものですから、伊達に関係がありましたので、「仙台の旧制の第二高等学校なら許します。そこに祖母がいます仙台ならちゃんと監視ができるから、そこならいいでしょう。」でもどうも二高を受けるだけの私は実力はない、東京の大学なら学習院なら高等学校ですから、皆当時受けられるし、まぁやってみようと思ったら、もう戦争もはじまって。全然やっぱり家にいなければならないということになりました。

【第二高等学校】
旧制第二高等学校（きゅうせいだいにこうとうがっこう）は、1887年（明治20年）4月に宮城県仙台区（現・仙台市）に設立された旧制高等学校。略称は「二高」（にこう）である。
Wikipedia

それで同志社の予科へ進んだわけです。当時同志社の予科といったら、一部と二部がありまして、一部というのは飛び級で4年生からいけるわけです。まぁだれでもいける。三年間一部はいけない。我々5年生で、受けて試験に合格すると、二部へ行くのです。それで二部の中でも独文と仏文にわかれるわけです。

フランス語が1クラス、ドイツ語が2クラスでした。私はドイツ語のほうへ入りました。そして予科にいって2年間勉強し、大学に今度行かなくてはいけない、その時大学は法学部と文学部、今のような総合的なたくさんの学科はない。

法学部の中に経済学科と、政治学科があった。法律学科と、経済学科というのは独立していない学科の一つだった。

私は当然文学部へ、というような思いはあったのですが、うち自体が文学、いうなればうちが全体で文学だから、他の世界を見たいと思い、それで法学部を受けたのです。当時、120人ぐらいしか取りませんでしたね。無事通ったのですよ、法学部へ。そして法学部の中の経済学科、政治学科、法律学科。私は経済学科を専攻しました。

そして1年入りまして、その予科に入った昭和16年、ご承知のように真珠湾攻撃。

学校にいったら、「えらいことだ日米開戦だ」とみんなが騒いでいる。

それで、私どもも「これはいよいよ覚悟しないといけないな」という気持ちもありました。大学の1年生になって、これからというときに短縮になってしまいました。

そして9月にはもう2年生になったのですよ。大学卒業までは徴兵を猶予してもらえる『徴兵猶予願』というのを出せば、その間安心して勉強できる。

他の中学や商業学校や、卒業した人達は皆20歳になったらみんな徴兵されている。

私らの友達で、中学で終わったらもう戦争に行ってますよ。ちょうど大学2年になろうとしたときに動員命令が出た。「各文系の学生で20歳になったものは、徴兵検査を受けろ」と。あの当時本当に大学というものも今のようにたくさんあるわけではありません。ものすごく限られてましたね。

まいりましたね。「ついに来たな」と。それで私もすぐ8月の末、9月になって区役所で徴兵検査を受けた。当時大学高専の学生です。徴兵検査で厳しい検査を受けた。私はちょっと体重が足らなかったので、甲種合格にはならなかった。第一乙種合格ということで、一乙で現役。

【甲種合格】
旧日本軍の徴兵検査で、現役に適する者として第一級で合格すること。白樺（6号）「志賀の徴兵は—で当人一寸気を遠くしかけて喜んだ」
広辞苑第7版 岩波書店

当時第二乙種まで現役でしたから、私は中級の上で現役でした。そしてまた色々検査がありまして、のちに私は海軍へ入りまして、そしてそのまま海軍で2年間、試験試験でまた振り落とされる。幸いにも私は、第一選抜でみな合格しまして、しかも一番大変な飛行科に予備学生として合格しまして、同志社から当時10人ぐらいでしたかね、飛行科に合格したのは。

他の大学もたくさんいました。でもちょうど海軍では飛行科のほうが約1700名、一般の船にのる者はあと1万人ぐらいとられて、あとはほとんど陸軍へ行きましたね。

陸軍へいった人達は、もう中支、北支、あとソ連へ引っ張られて、あるいは南にいった人達は、沖縄戦、あるいはビルマ、南方戦線で皆戦死している。

私は土浦の海軍航空隊で、基幹教育をうけて、それから徳島の海軍航空隊で、飛行機の実習訓練、そして10ヶ月間で皆身につけられるということで、海軍少尉に任官して、そして実戦部隊にまわされました。

【徳島の海軍航空隊】
日本海軍の部隊の一つ。第二次世界大戦の開戦後に行われた、航空隊の増設で開隊。戦闘機に特化した搭乗員教育のため、実用機練習を推進した。1944年に偵察専修生の訓練部隊に改編したが、翌年5月には高知海軍航空隊と連合隊となり、白菊特別攻撃隊となる。1945年6月26日で全機が出撃。

そして実戦部隊で、徳島の部隊で、特殊飛行の訓練をしておりまして、ちょうど昭和20年の3月に総員集合。士官以下、搭乗員は200名ほどでしたね。

「戦局が過大な重大な事態、今から皆、特別攻撃隊を編成してほしい。『熱望・希望・否』のいずれかにまるをつけて、名前を書いて出せ」と。

それで私は、『熱望』にまるをして当時私の名前は幼名でして、『千政興』と書いて出したのです。

それから2週間ほどしたら、全員特別攻撃隊になるわけです。私は『熱望』にまるをしましたから、白菊特別攻撃隊隊員として、今度は特殊攻撃訓練を受けた。

【白菊特別攻撃隊】
第二次世界大戦末期に編成された特別部隊。戦況が苦しくなり戦闘機が不足したため、機上作業練習機であった白菊を改造して特別攻撃が行われた。1945年1月8日に全軍特攻が決定し、練習航空隊が特攻隊として改編。同年5月24日の沖縄戦投入から6月26日まで、のべ115機が出撃した。

約1500メートルから突っ込んでいく。それはすごかったですね。私も約2年間海軍の飛行機乗り、パイロットとしまして、あの訓練はきつかった。高度1500メートルからずーっと突っ込んでいくけれど、下降から500メートルぐらいに計器盤見て、もう残り800メートルから操縦桿上げないとだめなのです。

ところがね、もう圧力がかかっている。ぐっとGがかかってくる。そうするとくーっと詰まってきて、めまいがしてそのまま突っ込んでいく者もおりました。

事故死ですよ。もうとにかく計器盤見てて、グワーッと上昇する。引きすぎると今度はひっくり返る。なかなかそのコツが難しかったですよ。

私は幸い、お茶の点前と一緒で、順序みな決まっている、「これはお茶の点前といっしょだな」と。それで気が楽になってね。うまく操縦できるようになった。あれはお茶のおかげでしたなぁ。

最後に昭和20年の5月に、全機攻撃機。鹿児島の南端の鹿屋の基地に、海軍は全部そこに集結。250kgの爆弾2つ積んで、それで突っ込んでいくわけですからね、もうおしまいだと思いました。私は携帯用のポータブルのお茶碗や道具が入っている『茶箱』を持っていました。陸軍でしたら許されなかったです。海軍はそういうことに、非常に寛大でありました。

それで私はいつもどこへ行ってもお茶を点てて、みんなが私がお茶の家の者だと知っているから、「千ちゃんお茶を飲ませて」と言ってねぇ。整備作業が終わると、お湯の入ったやかんを持ってきてもらい、配給の羊羹で、お茶を振るまった。皆学生出身の、まぁ階級だけは士官、少尉でありますけど、この中で仲が良かったのは、後に『水戸黄門』になって活躍した俳優の西村晃ですよ。彼は日

本大学出身です。

【西村晃（俳優）】
日本の俳優、声優。1923年1月25日生まれ「水戸黄門」の二代目水戸光圀として知られる。1943年の学徒動員で兵役に。第二次世界大戦中は海軍飛行予備学生、末期は徳島航空隊の特攻隊員だったが、特攻出撃時に機体不良で引き返し終戦を迎えていた。復員してからは、徴兵前より活動していた演劇の世界へ。1997年4月15日、74歳で逝去。

それから京都大学出身の旗生良景、福岡の男なんですけど、近所に下宿していたようでうちの前通ったらしい。私が茶を点てていると、「千ちゃんなぁ、俺生きて帰ったらお前んとこの茶室で本当の茶を飲ませてくれよ」と言われて。

その瞬間、「おうっ」と、いや、死ぬのだよ俺たちは、もう死ぬのだ、生きて帰れないんだよと。

これがなぁ末期のお茶かと思ったら急にね、涙が出てきてね。それでおふくろに会いたいなと。西村晃が立って、故郷のほうに向かって「おかあさーん」と叫びだした。みんな馬鹿にしたような顔をしてたが、徐々に立っていって、それぞれの故郷のほうを向いて「おかあさーん」とお父さんには申し訳ないけど、おかあさんにもう一回会いたいなと。今の若い人と違って、当時はもう恋愛したり、恋人をもったりする人はほとんどいません。みんな本当に無垢な、純真な、21歳22歳、大学生でした。

まぁ我々よく共通で話しあったのは、立教、青山学院。青山と私達同志社は非常に特別な関係です。青山学院や関西学院、立教、同志社、それぞれがキリスト教の学校でしたから、相当いじめられましたね。

反対に國學院大學とか神宮皇學館とか、これは神道ですからね。おもしろかったですよ。高野山大学、これはもう仏教の本懐だから、真言、天台、みなねぇ。そういう人達とも、皆語り合いながら、本当に俺たちは死んでいくのだよな、なんのために死ぬのだと、国を救うといったって、救うどころではないではないか。まぁせめて家族が助かってくれたら、俺達死んでも報われる。

貴様と俺ですよ、同期は。先輩になったら、私、あなた。これは海軍のひとつのしきたりですよ。そして私は昭和20年（1945年）忘れもしません、5月の21日に白菊特別攻撃隊総攻撃という出撃命令が出た。

その瞬間にですね、「千少尉！」と呼ばれた。隊長機に行ったら、「千少尉待機命令！」「えっ？」と聞き返すと「待機命令、命令が出ておる、待機しろ」「いや、私はいきます。皆と約束している、私は絶対にいきます」「命令違反になるぞ、待機命令がきている以上、待機しろ」といって私だけが降ろされたのです。西村と私だけが助かった。そして2日後に命令が出て「あ、きた」と思ったら、「松山の基地へ行け」と言われ松山の基地へしぶしぶ行きました。

昭和20年の5月25日です。そして松山の基地で、公費医療科練習生という中学生から入ってきた予科練、これの15期の教官をやれと言われました。飛行機に乗せるといっても、飛行機もだんだんなくなっていく。そのうち訓練が少なくなってしまった。私もまた命令が出たら、いつでも出ていかなくてはという気持ちでやっておりまして、しばらくしたらご承知のように、終戦、敗戦。

私は、大型機の機長として南方輸送、南方にいる将官を迎えに行って引き戻させるという命令が出て、陸軍の蛍池（今の伊丹空港）という基地に向かいました。そういう命令をもらいましてね、中尉になってました、海軍中尉に。私とあともう一人中尉で児玉という立命館の出身の男でしたが、その男と下士官を連れて、松山から回ったのですが、姫路へついたとたん爆撃でもう壊滅状態ですよ。そして蛍池へ行って、そこでも待機命令ですよ。それでそういう命令は出てるけど、飛行機が今どうもならない。2日間待たされて、結局どうやら命令は取り消しになった。もう戦争に負けたのだ、と。「我々はもうまた松山の基地帰るのか？」と聞いたら、「もう手続きやそんなことより帰られていいでしょう」と言われて、困りました。それが8月の末頃でした。

「帰ってきました。」うちの兜門の前で、軍刀おいて土下座しました。

【兜門（裏千家）】
裏千家今日庵の象徴。
簡素な門構え、檜皮葺、竹樋のたたずまいなど、侘びた風情を具現している。

もう帰れないと思ってたのが、帰ってきました。約2年間海軍軍人として従軍し、海軍中尉になって戻った。私が本当に、『敗戦の将、兵を語らず』でしたね。そして同志社大学にまた復学して、まだその時は法学部経済学科でして、そして明くる年の9月に卒業したのですね。だから私は法学士なのですよ、学士号は。法学士として賞状をもらいました。その後、同志社が拡大されて、経済学部として独立してきたのですよね。そして、同経会ができたのもそれからずっと後でしたけども。そんな経緯があるのですよね。

私は中学校からずっと同志社で、一貫して同志社の新島先生の教え、『良心、コンシーラシー、良心というのは一体何なのか』と考えてました。海軍行ってからも西田幾多郎先生の善の研究で。「それ一体なんなのだ」と考えてました。

【西田幾多郎の善の研究】
哲学者であり、禅の宗教性と生の哲学やドイツ観念論の論理を思弁的に統合し、「純粋経験」から出発して「無」の哲学と場所の論理を開拓した西田幾多郎の処女作。1911年（明治44）刊。主客未分の純粋経験の現実性を出発点として実在や善の意味を解明し、西田哲学の基礎となった。広辞苑第7版 岩波書店

新島先生のおっしゃる『良心』。新島先生がおっしゃったのは、バイブルの中にあるのですね。私、中学5年間でありがたかったのはバイブルをほとんど5年の間にどこに何があるのか、マタイ伝からすべて身に付けさせてもらった。讃美歌もそうです。

私はね、おもしろいのは家で利休御祖堂の仏間で、子供のときから父がお経をあげる。

【利休御祖堂】
茶祖千利休居士と、三代宗旦居士を祀るところから利休御祖堂と公称し、九条尚忠筆の扁額により清寂院とも称す。裏千家今日庵邸内の奥まったところに位置しもっとも大切なところ。大徳寺山門の楼上に置かれた等身大の利休木像と宗旦の小座像が床正面の丸窓の奥に奉祀されている。

そして屋敷の中に社があります。お経をあげて社へ出て、柏手を打ちます。

それから同志社へ行って教会へ入って、「アーメン」という。だから朝からね、南無阿弥陀仏、南無釈迦牟尼といって、それから柏手。学校いってアーメンですよ。

神仏全部、キリスト教まで自分の体の中にある。

そして私はその後アメリカに留学したり、それからずっと海外に70年間、68カ国、400回以上海外に行ってます。でもどこに行っても、例えば、ロシア正教に行っても、イスラム教に行っても、どんな宗教の場所に行っても、すっと入れる。これは同志社で学んだおかげ。やっぱりあのとき父が将来のためにも、と言われた、その将来が、なるほど、こういうことなんだと。非常にフレキシブルにすっとどんな国でもどんなところでも、入っていけるのですよ。

ですから一盌のお茶をもって、今日まで、「せめて世界の人とみんななごやかになってくれたらいいな」と、そういう気持ちでずっと活動してきたのです。母親の体内のお腹の中からお茶をいただいて生まれてきましたよ。だから私の血は赤じゃなくて、緑ですよ、グリーンですよ。だからお茶をいただくということは、私にとっての大きな心の糧であると同時に、自分の肉体を整備してくれた。ですから非常に自分自身は健全で、今年99歳になります。皆さん方がびっくりするのですよ。

私は幼少の頃から文武両道ということで、剣道やります、柔道やります。

柔道は、講道館六段で、同志社大学柔道部の顧問でもある。同志社大学の馬術部の名誉会長ですよね、健蹄会の。スポーツユニオンのほうも長くやってきた。

今も日本馬術連盟の会長で、現役で、こんなもうすぐ100歳の人間が現役ですよ。

馬術はねぇ、100歳でも何歳でもいいのですよ。オリンピックの憲章であるのですよ。

我々の馬術は100歳でも馬に乗れたら試合に出られる、男女区別なし。同じ種目。

この間もずっとオリンピック、それからパラリンピックに私もずっと参加してましてね。バッハ会長やみんな、びっくり仰天。「Oh you are nineteyeight!?」昨夏は98歳でして、今年99歳。大変驚かれます。

私は現役で馬乗りますし、お茶も立ったり座ったりと正座する、足腰は丈夫です。それから馬でやってる腰の安定ですよ。皆びっくりする。それはスポーツユニオン行ってご覧なさい、皆びっくり仰天します。今の家元も幸い

同志社、彼は文学部ですけど、うちはずっと同志社でご厄介になり、しかも同志社スピリット、いわゆる新島先生の『良心』というものを、手腕に運営する、それを持つというのはなかなかできにくいことですよ。

しかし、人間はみんな、どんな偉そうな顔をしても、悪人ですよ。僕は中学校の4年生のときに、「皆洗礼を受けるもの」といって、洗礼を受けるものが出ていく。牧師がそのときに、「良心、善と悪。人間はみな悪いのだ。嘘をついたことないもの手を上げろ」といっても誰も手をあげない。嘘は誰でもついている、一生を通して。だからね、そういう嘘のない、本当に嘘があっても、その嘘を上手に使わなければいけない。人に迷惑をかけてはいけない。新島先生の教えはそれなのです。正しい良心を持つということ、間違った『良心』を持ってはいけない、間違った『良心』を持ったら、嘘も方便とかなんとか言って皆言い逃れする。

正しい『良心』というのは、先生がおっしゃったように、自分自身でいつも反省をする、省みる心。それが一つ。

第二番目には、寛容の精神、トレランス。

第三番目には、いわゆる反省リフレクトであり、自分が本当に相手の方、どんな人にも迷惑をかけてないか、これなのですよ。

私はね、同志社人としてね、嘘偽りのない同志社人というものを育てられるならば、申しました3つの精神において、自分が色々携わる仕事、自分が携わる人間関係に値していかないといけないと思うのですよ。

私もこれだけの年をとったらね、様々な経験をしてきました。

「悔しい」、「憎たらしい」、「もう本当に嫌だ」いろんな事があった。「人生というものはこんな嫌なものなのか」と人生の裏、表、そして今日まで私は経験して来ました。自分の歩む道を踏み外さないように、一歩、一歩、その都度己を省みる。一歩一歩、謙虚であったかどうか、寛容であったかどうか、そして今こうやってまだ生かさせて頂いている。戦後77年経ち、日米開戦以来80年が経過しました。

私はパールハーバーのアリゾナ記念館でお茶を献じてきました。日米合同の場で一盌のお茶を差し上げた。パールハーバーには日本の攻撃で沈んだ船が海にまだたくさんある。亡くなった方々のお名前が刻まれた碑へ一盌のお茶を献じて、私は敬礼しました。すると太平洋司令官から皆がすっと起立して、みな敬礼して。海上自衛隊とアメリカの海兵隊がラッパを鳴らす。あのときほどね、「私は生かされている」と、「このために生かされたのか」と。一盌のお茶を、かつて戦った者同士、その同士が眠るところに捧げる。素晴らしいことができました。もう限られた方しか艦上に上がられませんでしたけど、今から4年前でした。4年前めったに許されないことを、私はさせていただいた。

またアブダビでイスラム教のあの大きなモスクで献茶させていただいた。ロシア正教のチャーチでも献茶をさせていただいた。ありとあらゆる宗教の場所で、私はお茶を献じてきた。それによって、本当に日本人の魂、日本人の心というものをあちらこちらに私は植え付けてきました。それが茶の道の姿なのですよ。ですからね、同経会の皆様方にも一盌のお茶をね、理解していただきたい。何も難しいことではありません、ちょっとね、コーヒーを出すよりも日本のお茶ですよ。宇治でできたお茶ですよ。その抹茶をね、ちょっと入れてお湯をいれて茶筅で攪拌し、「おかしをどうぞ」これですよ。これをやってほしいのです。

私はそういう意味において、校友会の井上礼之前会長とも言ってたのですよ。「もうねぇ同志社の方だったら新島先生の精神を本当に知るんだったら茶道だぞ」と。「そうですそうです、僕も好きです。」といってました。そんな意味でね、私は同志社も茶道部がずっとありますし、経済学部、あるいは文学部、いろんな学部の学生が茶道部でずっとやってきています。私は馬のほうも、オリンピックでね、皆選手たちにお茶を召し上がってもらいました。皆喜んでねぇ、パラリンピックの人たちもお茶を召し上がってくれました。非常にね、心と心の結びつき、日本人はね、言葉で「おもてなし、おもてなし」言うけれども、黙ってお茶を点てて「どうぞ」。これが本当のもてなしですよ。そういう気持ちをね、新島先生が同志社に植え付けたい、そういう気持ちで、同志社というものを、創設された。そういうことを理解していただかないといけない。私も海外雄飛して、新島先生の後追いをいたしました。おかげで英語や外国の事情も、すべて自分がこの中で修めることができた。これは大きな収穫ですよ、本当に。今の若い人たちに言いたいのですよ。いろんな意味で、嫌な世の中と思うでしょ、しかもここへコロナとか。いろんなその病原菌が。でもねこれだけではすみませんよ。コロナが終わってもまた新しい菌が出てきますよ。その証拠にそうでしょ、デルタが出てきた。そして今度はそしてオミクロンが出た。今度はまた別の何がでてくるかわからない。だからそういうものに対して、人間が負

けてはいけない。「自分たちはかからない」とかそういうことではないですよ。精神的なね、もろさをね、さらけ出したらだめ。やっぱりね、従容としてそれにぶつかっていく覚悟がなかったらだめですよ。仕事のうえでも皆そうだと思う。今の若い人は、気に入らなければ、せっかくいいところに入ってもやめる。上司がつまらないとか、人間関係が嫌だとか。昔はそんなことはできなかった。厳しかった。そして、私達の時代は本当にすごい勉強だった。先生方もすごかった。今の学生はコロナのため学校にも行けず、かわいそうに思いますが、人のせいにはしない。自分で自分の心身を管理し、そして自分がいつも相手に対して謙虚な気持ちで、これが大事だと思う。

どうか、そういう気持ちで世の中を同経会の皆さんが見つめてもらって、自分自身を切磋琢磨してほしい。切磋琢磨というような言葉を使うこと自体が、古臭いというけど、そうではないのですよ。切磋琢磨、これこそ大事なひとつの人間の価値、そういう自分の存在価値を知るためにもそれが大事だということです。

私は自分がどこへ行っても同志社の出身者であるという気持ちを、海外に出ても、それを私は皆に誇れるのですよ。私は仏教徒でもあり、また神道でもあります。そして学んだところは同志社である、キリスト教である。だから非常にフレキシブルなのですね、自分自身が。そしていつも講演などで使うのは、バイブルの中の言葉を使うのです。いい言葉がたくさんある。そして釈尊の教えの中で、禅宗の教えの中で、それぞれに素晴らしいと思うものもたくさんある。

私は海軍へ行って、帰ってきて、大学卒業してから、大徳寺の僧堂へ入りまして、それで雲水になって修行しました。

これはきつかった。雲水という修行は先輩がいるけど

【雲水】
禅宗の修行僧。雲水(うんすい)。(行雲流水のようにゆくえを定めず道を求めることから)遍歴修行する禅僧。
広辞苑第7版 岩波書店

も、何一つ教えてくれない、何にも命令も何も教えてくれない。軍隊は命令で動いていたら間違いがなかった。そういう生活から、何にも命令がない。これほど苦しいことはなかったですね。ぞうきんをもって、先輩のところへ行ったら、そこで拭こうと思ったら、もう無視ですよ。「お前何しに来たのだ」と。これが僧堂の一つの掟なのですよ。しゃべってはいけない。教えてはいけない。来たものは自分で探せ。これはマタイ伝でもあるのですよ。

『叩きなさい、叩けば門はひらかれる。』

『探しなさい、探せば必ず求められる。』

『自分を知りなさい、自分を知りたければ、狭き門に入りなさい。』

『狭き門は命の泉へ達する。広き門は命の泉に達しない。狭き門を求めなさい。』

いわゆるキリストの教えというのは、常識ですね。マタイ伝にしてもヨハネ伝にしても。私のせがれも大学から同志社に入ったけど、チャペルへ入ったのはそれほどないと思う。今の中学はどうか知りませんが、昔みたいに、もっとチャペルに行った方が良いと思う。そして聖書と向き合う。私は、今でもバイブル持ってますよ。おいてありますよ、ちゃんと手元に。仏教の経典もおいてありますよ。祝詞もあげられますよ。非常にそういった意味でありがたい。人生の生き方というのはね、そういう生き方をしなければだめなのだ。狭い門で、狭い気持ちで、狭い視野で行ったらだめですよ。拡げなさいよ、拡げなさいよ、拡げなさいよ。新島先生の教えでした。

同経会・なごやのつどい

日時：令和4年7月2日(土)
17：30～20：00(受付17：00～)
場所：名鉄グランドホテル
講演：株式会社GL-iTTER STAGE
代表取締役 七條 千恵美さん(同志社・国文科卒)
(講師紹介) 国際線CA、CA教官としての経験を生かし、現在、研修講師として接客マナーやビジネスマナーを中心とした研修、講演、執筆で活動中。

※新型コロナウイルス感染症の収束状況によっては変更もあり得ますが、それを注視し、可能ならば5月にはご案内状を発送予定です。

お問い合わせ先：名古屋プロジェクト委員長　萱原　昇
E-mail：kayahara@insight-corp.org
携帯：090-3255-4776

同経会総会・卒業生のつどい

日時：令和4年7月9日(土)
16：00～20：00(受付15：30～)
場所：からすま京都ホテル
講演：日本ラグビーフットボール協会顧問(前副会長)
坂田 好弘さん(同志社・経済学部卒)
(講師紹介)日本ラグビー史上最初のワールドクラスプレイヤーとして活躍された、同志社の誇る国際的アスリート。

スケジュール：16：00～総会、17：00～講演会、18：00～懇親会(予定)

※新型コロナウイルス感染症の収束状況によっては変更もあり得ます。
詳細については、ホームページ等でご案内いたします。

お問い合わせ先：同経会事務局(担当：松島)
E-mail：info@dokeikai.com

同志社ビジネス交流会(大阪)

日時：令和4年10月1日(土)
14：00～18：00　(受付13：45～)
場所：ユーズ・ツウ
(大阪市北区梅田2-1-18富士ビル)

主催：同経会大阪、樹徳会大阪支部、政法会大阪支部、
幹事：同経会大阪
協力：士の会、LCC、RE不動産会、KAKEHASHI30、八重の会

定員：100人
会費：3000円程度

※詳細については、ホームページ等でご案内いたします。

お問い合わせ先：大阪プロジェクト副委員長 新村 明男
E-mail：a-niimura@jipang.co.jp

卒業17年目のOB・OGの方々に、ご自身の近況や社会人の仲間入りをした卒業生への言葉を語っていただきました。

ある土曜日の今出川キャンパス

同志社大学【篠原 総一ゼミ】大学教員　荒渡 良

2022年2月19日、今出川キャンパス良心館4階にある私の研究室でこの文章を書いています。窓から見える彰栄館の時計は2時48分をさしています。土曜日なのでまばらではありますが、図書館や明徳館の周辺にいくつかの人影が見えます。卒業してからおよそ18年。私は今、同志社大学経済学部で教鞭を執っています。

こうしてキャンパス内を眺めていると、自分が学生だった頃の事を思い出します。これまでの人生の中で、大学で過ごした4年間ほど沢山の出会いを経験した時期は他にありません。例えば、中国語のクラスでは他学部の学生達と仲良くなり、その関係は今でも続いています。当時は阪急北千里駅でストリート・ミュージシャンをやっていたのですが、そこで出会った人々とも、今でも少なからず交流があります。

ゼミでは数え切れないほどの思い出ができました。恩師の篠原総一先生は学びに妥協を許さない厳しい先生で、たった30ページの内容を5週間も連続で発表させられたこともありました。しかし、そのご指導のおかげで今の私があることは言うまでもありません。ゼミでは仲間にも恵まれ、扶桑館4階の自習室で毎日のように勉強会をしたものです。週末には下宿に数人が集まり、計量経済学の宿題に取り組みつつ、朝まで語り合うこともしばしばありました。

大学で何が得られるか。人それぞれだとは思いますが、私の場合には人との出会いが最も大きかったと断言できます。在校生の皆さん、同志社大学には素晴らしい出会いが満ちています。その一つ一つをどうか大切にして下さい。いずれそれが、何ものにも代え難い人生の宝物になる筈です。卒業生の皆さん、同志社で得た宝物をずっと大切に、今度は社会で歩んで下さい。皆さんの今後のご活躍を心よりお祈りしています。

大学時代の濃い経験～現在に想うこと

村田機械株式会社繊維機械事業部営業部
【布留川 正博ゼミ】会社員　大谷 淳子
（旧姓：牛窓）

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

大学時代は應援團チアリーダー部に所属し、４年間を全力で過ごしました。体力にも運動神経にも全く自信はありませんでしたが、『スポーツ観戦・応援が好き』という気持ちだけで入部を決意しました。それまでの女子校での中学・高校生活では文化系クラブだけで過ごし、そういったクラブに縁遠かったことも『苦労』を知らぬがゆえに、無謀な決意を固めてくれたのだと思います。

『應援團チアリーダー部』には高校までののんびりした空気感とは異なる、まさしく青春の濃い時間がありました。団体活動の難しさ・諦めない精神・何とかなる！と前向きになることの大切さ、自分の考えを人に伝えることの難しさ、仲間たちとの一体感や嬉し泣きの経験…など。苦しさももちろんたくさん経験しましたが、今思い出されるのは不思議と『嬉しい！』や『感動！』のあの瞬間の胸が熱くなるような感覚です。

残念ながら仕事に於いては、学生時代とは異なり『好き』や『やりたいこと』だけを選択できるわけではありません。それでも単なる会社員でもその道の『プロ』として、『やるべきこと』を乗り越えると、『達成感』や『嬉しさ』があります。またその積み重ねにより『好き』を突き進むのとはまた別の輝きを得る瞬間が訪れます。『またあの瞬間を…』と追い求めるのは、学生時代のあの頃と似たような感覚です。

学生時代の濃い経験が若かりし頃の社会人生活の基礎を支え、今では仕事と子育ての両立も支えてくれていると感じています。

人と人との距離間に難しさがある今日この頃ですが、

まずは若さあふれるエネルギーを原動力に社会人になっても前向きに歩み続けて下さい。皆様の社会人生活が幸多きものになるようお祈りしております。

失敗家のあくなき挑戦

安田女子大学【森一夫ゼミ】大学教員　高田 裕

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

私は２００４年に卒業し、大学院に進学しました。修士課程を経て、広島銀行に入行しました。外資系金融機関でアナリストやファンドマネージャー、シンクタンクでエコノミストをし、現在は大学教員として研究と教育に励んでいます。

大学時代は体育会弓道部に在籍し、弓道三昧でした。学生生活のほとんどを弓道の練習に費やしたものの、一度も試合にでることすらできませんでした。悔しさ、恥ずかしさ、みじめさの中、家で泣き、何度も退部を考えました。４回生の最後までレギュラーを目指し続けましたが、夢と散りました。

卒業後、ゼミの指導教官であり、尊敬する西澤由隆先生（※政治学のゼミにも所属）のような研究者に憧れ、興味のあった経済学で大学院へ進学しました。しかし成績が振るわず、修士課程で就職となりました。「夢やぶれ、故郷に帰ろう」と、興味がないままに就職した広島銀行は長続きしませんでした。挫折の連続でした。

しかし西澤ゼミで学んだ「分析する醍醐味」が忘れられず、仕事終わりや休日に勉強やフィールドワークを再開しました。当然、その時の仕事と関係ありません。紆余曲折あり、とうとう「アナリスト」「エコノミスト」という天職に巡り合いました。企業や経済を分析する仕事で、私の好奇心を刺激しました。海外を含め多くの賞を受賞し、書籍も出版しました。

「周りから失敗と思われようとも、人より時間がかかろうとも、謙虚な姿勢でひたむきに努力し、ゆっくりでも前に進むことは失敗ではない」と今は思います。挑戦は何度でも可能です。自分のことばかりになりましたが、最後に、皆さんの活躍を心よりお祈りしています。

川ときどき海

井澤金属株式会社【横山 照樹ゼミ】会社員　永井 俊輔

この度光栄にも筆を執らさせていただく2000年度生の永井俊輔と申します。2004年の卒業以来、現在の勤務先にて工作機械周辺機器の営業を行っております。現在メインには顧客となる自動車メーカーがより安く、より早くたくさんの部品を機械加工することのできる最適な道具を選定するお手伝いをさせていただいております。モロ文系出身ながらも元来モノづくりが好きな小生にとりましては文系の感覚を必要としながらも技術的な勉強をさせていただける現在の仕事がピッタリと考えております。

そんな小生の休日の過ごし方としているのが子供の頃から大好きな魚釣りです。様々な対象魚、釣り方を行っておりますが中でもお気に入りは鳥の羽などを釣り針に巻き付けて虫を模した毛鉤を用いて山奥の川に生息するアマゴやイワナ等のサケ科の魚を対象としたフライフィッシングです。これらの魚が生息する辺りにはコロナ禍の三密など関係ありません。人間には出会いませんが鹿に会います。イノシシにも会います。時にはクマにも会います。そして美しい魚にも（腕次第で）会います。そのように山の中で過ごしていますと自分が生物としての一人間であることを、このデジタル社会の中では忘れていたものを思い出させてくれるものです。

加えまして小生は2年ほど仕事でタイ王国の海辺の小さな町に駐在していたことがございますが、そこで気づかされたのが日本の海の豊かさです。外国を知ることで逆に多種多様な生物が豊かに存在する日本の自然の知ることができました。帰国以来は山の川と並行して海へもよく通うようになりました。さすがにクマの出る山に小学生になる倅を連れていくことは出来ませんが海辺の堤防であれば子供と一日過ごすことも可能です。そしてなにより海の魚は食べて美味しい！

皆様も魚釣り如何でしょう。きっとあなたの人生を豊かにしてくれるものと思います。

右の頬を叩かれたら…

蓮池税理士公認会計士事務所【小森 暸一ゼミ】
税理士・公認会計士　蓮池 章弘

この度ご卒業された皆様、ご卒業おめでとうございます。在学生ならびに教職員の皆様、それよりも前にご卒業されている皆様にもご健勝のこととお慶び申し上げます。

今回、筆を執らせていただくという滅多と無い機会を頂きましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

私事ですが、２００４年3月に卒業後、現在は事業承継、相続、不動産の分野を軸とした税理士・公認会計士の職に就いております。

現在、私共の業界では消費税のインボイス導入への対応と電子帳簿保存への対応が主な課題となっております。

数年前からＡＩの普及により税理士業が駆逐されるという記事がありましたが、現在はＲＰＡに自動仕訳ＡＩを組み込んだ自動経理システムが徐々に利用されてきていますので、将来は単純な経理業務代行のみで依頼が来ることは無くなると思います。

楽観的かもしれませんが、著者はＲＰＡやＡＩの影響は割と限定的なものと思っております。むしろ業務の効率化や内部統制の有効化という側面からはそれらが普及する事は好ましい事だと理解しております。

税務や会計の世界には人間の判断が必要な局面がありますので、専門家として独立した立場の人間である税理士や公認会計士が不要になることはないはずです。

ところで今後を生き抜くためには環境の変化に適応することは必要ですが、やはり狡猾な生き方はお勧めしません。人としての良心は一度でも失うといつかは築き上げた信用を無くすことになります。悪いことはできません。失った信用は一生取り戻すことができないことの方が多いです。

良心の無い人には必ずどこかで出くわします。現代は聖書の書かれた時代とは違いますので、致命的な被害を受けないようにするには強かにやり過ごすなり逃げるなりする必要があります。

右の頬を叩かれたら、左の頬も出すのでも叩き返すのでもなく、この場合は叩かれる前に逃げましょう。三十六計逃げるに及かず。戦略上、逃げることも生き抜くためには大事です。

最後に皆様のご健勝を祈念致しまして締めさせて頂きます。ありがとうございました。

退任の先生のご挨拶

西村 卓

日本経済史担当教員として、同志社大学経済学部に戻ってきて、あっという間の37年でした。研究、教育、行政とたどたどしいながら歩いてこられたのは、私を支えていただいた方々の多大なご指導があってのことだとつくづく思います。ありがとうございました。

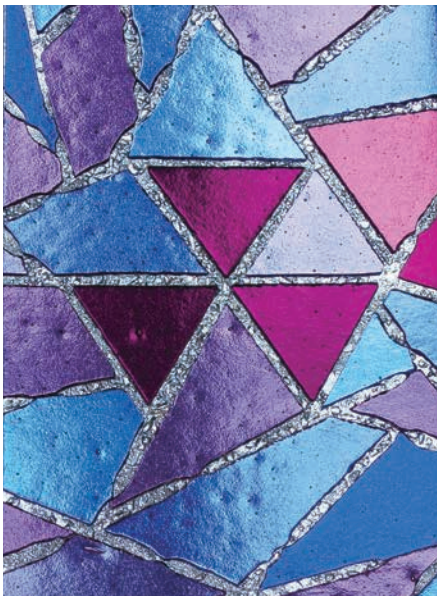
そのなかでも、私には「恩師」とお呼びする先生が3人おられます。すでに3人とも鬼籍に入られましたが、学部時代に私を日本経済史研究に誘（いざな）っていただいた本学経済学部名誉教授の岡光夫先生であり、さらに怠惰な私を辛抱強くご指導いただいた九州大学名誉教授の秀村選三先生であり、私の生涯の研究テーマである「林遠里と勧農社」を授けていただいた京都大学名誉教授の飯沼二郎先生です。

この「恩師」の先生方から受けた学恩に対して感謝してもしきれません。曲がりなりにも研究者として独り立ちできたのはそれがあったからこそです。

さらに、この時代のなかでの「立ち位置」という意味で、大きな影響を受けた先生がおられます。故宇沢弘文先生です。宇沢先生とのお付き合いは、私が学部長で、先生を同志社大学に専任フェローとしてお迎えした時からで、強い学問的刺激を受けながら、少年のような先生の感性の輝きに、引き付けられていきました。

先生との打ち合わせで東京に出向いた時、ちょっと行こうとお誘いを受け、いったところが、居酒屋。昼間から？と思いながらも同伴をし、楽しく打ち合わせも済ませたこともあったなあと思い出します。

九州大学 大学院時代に秀村先生と



先生は晩年、地球温暖化をはじめとする環境問題に積極的発言をされながら、「社会的共通資本」という概念の豊富化と精緻な理論化に精力的に取り組まれました。先生亡き後も、この作業は多くの研究者に引き継がれています。

いまや、「新しい資本主義」といった言葉が政治の世界でも飛び交っていますが、こんな時代だからこそ、「社会的共通資本」という概念にいっそう磨きをかけ、光り輝かせ、豊富化し、我々の進むべき道を照らす「あかり」としたいと、切に思います。

ありがとうございました。

同経会賞は、経済学部専門科目の総合成績が極めて優秀であった学生上位5名を表彰する制度です。

1978年に第1回の授与が行われて以来、昨年3月で44回を数える歴史ある賞です。この間、経済学部の卒業生は約5万9千名を超え、同経会賞受賞者は総計221名になりました。例年ならば、卒業式に先立ち、経済学部長やゼミ指導教官、父母らの臨席を得て、授与式を行うのですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の現況を鑑み、残念ながら授与式は中止致しました。受賞者には賞状と記念品の時計が、郵送にて授与されました。

第44回受賞者は、学籍番号順に次の方々です。

半田 直也　さん　（新関 三希代 ゼミ）
東山 竜弥　さん　（小橋　晶 ゼミ）
近藤 夏音　さん　（新関 三希代 ゼミ）
西嶋 周磨　さん　（小藤　弘樹 ゼミ）
太田 葵　さん　（伊多波 良雄 ゼミ）

ご受賞おめでとうございました。今後のご活躍を祈念申し上げます。

とりあえずやってみることの重要性

株式会社タクマ【小藤 弘樹ゼミ】 西嶋 周磨

この度は同経会賞を受賞することができ、大変光栄に思います。共に学んだ小藤ゼミの先輩方、後輩、同回生、そして真摯に指導して頂いた小藤教授には非常に感謝しています。

私は同志社大学を卒業してからの一年間で「とりあえずやってみる」ことの重要性を感じました。このことは在学中に小藤教授が仰っていたことでもあります。私は現在勤めている会社に入社する前、これから始まる社会人生活に対して不安を抱えていました。職場の人と上手くやっていけるだろうか、きちんと仕事ができるだろうか、などと考えても仕方ないことに思いを巡らせ、ネガティブな感情を増幅させていました。ですがいざ入社すると、会社では様々な仕事をする機会があり、刺激の多い充実した毎日を送っています。

この先、まだ経験したことがないことや、難しい課題に直面した時、深く考え込んでしまわず「とりあえずやってみる」の精神で飛び込んでみることで、多くの気づきや新しい発見を得られればと思います。

見方を変えれば、世界が変わる

NTTドコモ【新関 三希代ゼミ】 半田 直也

同経会賞をいただき、大変光栄に思います。京都に根ざした同志社大学で、勉学と青春に明け暮れた4年間は今の自分の糧となっています。

特に新関教授のもとで学んだゼミ活動はかけがえのない時間でした。個性豊かでありながら、自分自身の信念に真っ直ぐな同期と切磋琢磨した経験は忘れられないものです。

現在、私はスマートライフ領域のマーケティング業務に携わっています。携帯料金の引下げをうけ通信業界が事業転換を求められる中で、お客様の生活を豊かにする新しい価値を届けることを使命としています。

お客様の機会費用をなくし、お客様にサービスを届けることを日々悩みながら業務を行っております。力不足を痛感する毎日ですが、課題に直面したとき私は新関教授の言葉を思い出します。「見方を変えれば、世界が変わる」。勉学とは新しい視点を自分に与えてくれるものだと私は思います。

お世話になった方々へ恩返しができるよう、学ぶ姿勢を忘れず、知見の深耕に努めていきたいと思います。

船橋 恒裕ゼミ

浦田 萌絵子

こんにちは。船橋ゼミの3回生、浦田萌絵子と申します。私たちは福祉経済についての研究を行っており、2年次には少子高齢化やそれに伴う問題、福祉サービスについてなど日本の現状について学習しました。3年次春学期にはそれをもとに、ベーシックインカム制度の導入への賛否など自由にテーマを決めてディベートを行い、秋学期には各人が興味を持ったテーマについての研究と発表を行い、船橋先生からのフィードバックをいただきました。

新型コロナウイルスの影響で多くの講義がオンラインになる中、幸運なことに私たちは対面でのゼミ活動を行うことができ、ゼミ生同士の親睦も深まり、非常に居心地の良い環境で学習することが出来ています。このような状況下でも学習できること、そしていつも温かくご指導くださる船橋先生に感謝しながら、これからもゼミ活動に取り組んで参ります。最後に、先輩方の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

伊多波 良雄ゼミ

櫻井 亮輔

伊多波ゼミ35期生です。私たちは、公共経済学をテーマに21名で活動しています。そして、伊多波ゼミ最後の代になります。

2年次には、公共経済学の本の輪読や興味のある分野ごとに班に分かれ、プレゼンをしました。そして、3年次の春はオンラインではありましたが関西大学、大阪商業大学と合同でディベート大会を行いました。コロナ禍という難しい状況でしたが、他大学との交流を通して刺激を受けることができました。また、秋は限られた時間の中でWEST論文大会に向けて班ごとに論文を執筆いたしました。チームで協力し、最後までやり遂げるという素晴らしい経験が出来たと感じています。

OB・OGの皆さま、日頃からご支援ありがとうございます。そして、今年度はオンライン開催となりましたが、同窓会の準備・ご参加誠にありがとうございました。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

笠井 高人ゼミ

和田 慎太郎

「経済学とはどのような学問か。」私たち笠井ゼミは、時にこんな大きな命題にも立ち向かいながら、経済思想史を学びます。今年度の秋学期からは初めて3学年が揃い、2年生5名と3・4年生4名に分かれて活動するようになりました。

2年生は、英語の文献と根気強く向き合いながら、現代にも名を残す各時代の思想家たちが考える「経済」について学びました。3・4年生は、昨年度に学んだ経済学の歴史をもとに、各自が対象とする思想家を取り上げ、その研究報告を行いました。また、それと並行して輪読も行い、社会の諸問題に対する経済学の立ち位置について意見を交わしながら、学びを深めました。経済「思想史」という名前から、数式を扱わなくても良いと思われがちですが、1・2年生で学んだミクロ・マクロ経済学や経済数学の知識を最大限活用して議論しあえるのが特徴です。少人数である事を活かした主体的な学びができるよう、これからも励んで参ります。

河島 伸子ゼミ

瀬戸 桃歌

こんにちは。河島ゼミは文化経済をテーマに学んでいます。2021年度の2回生は様々な文化活動の例を取り上げ、各班で経済的な視点を持って話し合いました。3回生からはゲーム、アニメ、アイドル、音楽、ファッションの5班に分かれ、1年間、それぞれの班が文化経済の視点を通して研究する予定です。

さらに、河島ゼミの活動には個人発表の時間があります。この時間は、ゼミ生各々が自分の好きな事柄や興味のあるテーマについて発表するため、個人の探究心を深めることができます。一人ひとりの持ち味を生かした発表内容は他のゼミ生にとっても刺激的でとても楽しみな時間です。

活動の様子はTwitterを更新していますので、ぜひご覧下さい。

河島ゼミは、それぞれの個性を活かして活動することができる自由なゼミです。またゼミ生も皆優しく、あたたかいゼミなので、今後もこの環境に感謝し、精進していきたいと思います。今後とも河島ゼミをよろしくお願い致します。

Twitter:https://mobile.twitter.com/kawashima_semi

北川 雅章ゼミ

野木 誠真

こんにちは。北川ゼミ2021年度ゼミ長の野木誠真と申します。私たちは現在、男子18人、女子8人、北川雅章教授の計27人で活動しています。二年次は書籍『日本経済の軌跡と飛躍』を用いてグループごとに発表することで本ゼミの研究テーマである日本経済とマクロ経済学についての理解を深めました。三年次では経済学部・経済学会主催のディベート大会に参加しました。ゼミ生全員がディベート未経験者からのスタートだったことや、コロナ禍により別室で画面越しに討論をするというイレギュラーな形態であったからか、大会での結果は振るいませんでした。しかし、ディベート大会への準備期間を通してゼミ生同士の交流は深まり、大会の結果とは関係なく良い経験を得ることができたと感じています。北川ゼミで得た経験を活かしながら今後も卒業論文や就職活動に全力で取り組んでいきたいと思います。

北坂 真一ゼミ

平田 大貴

こんにちは、北坂ゼミ3回生の平田大貴といいます。まず私たち北坂ゼミの活動内容についてですが、2年次には1つの参考書を輪読し、わがゼミの研究対象である計量経済学についての基本的な知識をつけました。そして3年次の現在、私たちはパソコンを用いた分析を中心にゼミ活動を行なっています。具体的にはそれぞれが好きなテーマを選び、その情報を集めることからはじまります。そして集めたデータをEViewsというソフトを使って回帰分析していきます。こんな事を聞くと、パソコンをカチカチと打つのかな、タイピングが不安だな。と思うかもしれませんが、大丈夫です！私もゼミに入った当初は全くコンピュータ操作ができませんでした。ですが、先生が丁寧に説明してくれますし、なにより慣れます。このように私たちは日々、ゼミ活動に励んでいます。

小橋 晶ゼミ

林 陽奈

こんにちは。私たち小橋ゼミは現在、2回生22名、3回生18名、4回生18名で活動しています。2021年度は、無事対面でゼミ活動を行うことができました。3回生は、春学期に経済学部主催のビジネスアイデア大会、秋学期に経済学部主催のディベート大会に参加しました。どちらも、1チームずつ予選を勝ち上がり、本選に出場することができました。

2回生が新たに入ってからは、「サブゼミ」という形で週に一回は2・3回生が共にミクロ経済学を学ぶ機会を設け、交流を深めました。そこでは、身近な健康問題を解決するためのビジネスプランを考え発表するなど、楽しく経済学を学べる授業を行いました。授業外でも、感染予防をしながらイベントを行うなどして親睦を深めました。主体的に考え行動していくことを、私たち小橋ゼミは大切にしています。今後も、この主体性を大切に充実したゼミ活動を行っていきたいと思います。

小林 千春ゼミ

堀 優那

私たちは、これまでのゼミ活動で様々なことを学び成長してきました。3年生の春学期に行われたビジネスプランコンテストでは優勝・準優勝を果たし、協賛企業である大丸京都店様のご協力の元、自分たちのプランをカタチにするという非常に貴重な経験をすることができました。また、秋学期に行われたディベート大会では、6連覇を目指し活動に力を注いだ結果、優勝・準優勝、ベストディベーター賞独占という、誇らしい成績を残すことができました。それもこれも、小林先生や先輩方の手厚いサポートのおかげであることはもちろん、ゼミ生が一丸となって目標に向かって努力してきたからであると思っています。これらのゼミ活動を通してかけがえのない経験と仲間を得ることができました。このことに感謝し、先輩方から教わったこと、していただいたことを、今度は私たちが後輩たちに繋いでいきます。

小藤 弘樹ゼミ

長谷川 明日菜

こんにちは！私たちは現在先生1人と学生28人で毎週水曜日に良心館の433教室で活動している小藤ゼミです。今年度は11人の2年生が入ってきてくれました。2年生は初めに経済学を復習し、その後具体的な時事問題を経済学的に議論することで知識を深めました。3年生は合同ゼミに向けて「高知県の観光」と「神戸市の地下鉄」に焦点を当てて準備を進め、発表をしました。そして4年生は培ってきた知識や経験を生かして学生生活の集大成である卒業論文を執筆しました。

小藤ゼミの醍醐味は、学生が博識な小藤先生とともに多方面から時事問題を捉えて議論することによって、日常的な視野を広げられるところです。ゼミ生は〝個性的でにぎやかな4年生〟〝おとなしくてマイペースな3年生〟〝静かに黙々と取り組む2年生〟というように学年ごとでカラーが異なっているのですが、この多彩な仲間が刺激や影響を与え合いながら議論を交わし視野を広げることでお互いを高め合い日々成長しています。

三俣 学ゼミ

上野 安結

私たち三俣ゼミは2020年度に始動し、現在一期生12名と二期生15名が所属しています。研究テーマは「エコロジー経済学」で、地域に着眼点を置き、資源・環境問題にアプローチしています。三俣先生は「現場」を大切にされており、学生とともに直接体験・見聞きし、その地域のあり方や自然について学ぶ機会を持たれます。また、座学も重視されており、社会調査の方法論をはじめ、地域資源・環境・政策など幅広い分野の先行研究を学ぶことができます。

2021年度春学期は、輪読やフィールドワークを通して、資源・環境問題やコモンズ論、フィールド調査法の理解を深めました。秋学期は、年末に開催される「6大学合同ゼミ」に向けた研究を進めました。「6大学合同ゼミ」は、環境経済・政策の研究をしている6大学のゼミ生らが一堂に会す機会です。研究成果を発表し、学生間で意見交換をしたり、専門に研究されている先生方から直接コメントを頂けたりと、大変貴重な機会となりました。

今後もゼミ生一同、ゼミ活動に精進していく所存です。

宮本 大ゼミ

3年生幹部一同

2021年度の宮本ゼミ3年生の活動は、テーマについて仮説を立て、統計分析ソフトを用いてデータ分析を行い、その結果についてプレゼンを行うという論文作成の一連の方法を習得し、その後、卒業論文の土台となる個人研究を行いました。

そのほかのゼミ活動では、新型コロナの影響で制約を受け、ゼミ合宿はできませんでしたが、オンラインだけでなく教室での対面で3回のキャリアに関するセミナーを開催することができました。第1回は、就職活動が終了した4年生が就活のこと、キャリアについて考えていることをお話しいただきました。第2回は、ゼミの卒業生の方々が学生の私たちには想像しにくい仕事のリアルをお話しくださいました。最後に第3回は、先生の同期の方にお越しいただき、ご自身のキャリアとキャリアを積むためのヒントをレクチャーしていただきました。

コロナ禍でも状況に応じて、同期だけでなく、先輩方や卒業生の方とも交流を実施することができ、今後もそうした機会を続けていければと思います。

宮崎 耕ゼミ

田村 竜哉

本年度の宮崎ゼミは新たに25期生25名を加えた70名で活動しています。2年生は「世界の常識」というテーマで研究を行うとともに、ウェブサイト制作のハウツーサイトの構築に取り組んでいます。また、3年生はオープンデータやAIを用いたアプリ開発、4年生はメタバースやAI社会をテーマとする卒業論文を執筆しています。3回目の参加となったアプリの国際コンテスト「第4回東京公共交通オープンデータチャレンジ」では、3年生のチームが東日本旅客鉄道特別賞、4年生のチームがINIAD特別賞をそれぞれ受賞しました。

今年も新型コロナウイルス感染対策のため、海外視察や運動会といった恒例行事の多くが中止となりましたが、枝見ウォークや紅葉狩り遠足（写真：撮影時のみマスクを外しています）など、新たなスタイルのゼミ行事がスタートしました。また、良心会（宮崎ゼミのOB・OG会）は今後、オンラインとリアルの年2回開催とすることが検討されています。是非ご参加ください。先輩方にお目にかかれることを現役生も楽しみにしております。

宮澤 和俊ゼミ

田中 凜太郎

皆さんこんにちは。私たち宮澤ゼミでは、3回生17名と、中国からの大学院生1名で活動しています。公共経済学をテーマに理論分析と実証分析を行なっています。理論分析では、宮澤教授と焼田教授の共著である財政学という教科書について、輪行を通して学びを深めています。難解な部分は宮澤先生が補足説明をしていただきながら理論を学んでいます。また、実証分析ではOECDのデータを用いながら、少子高齢化などの社会問題を引き起こしている原因は何なのかということについて、Excelで回帰分析を行っています。さらに学生プロジェクトでは「京都水族館」や「京都の民泊」を盛り上げるために有効な解決策を模索する活動を行なっています。今年はコロナの影響で、ディベート大会やゼミ合宿を行うことが出来ませんでしたが、zoomを活用しながら活動を行いました。このように宮澤ゼミでは、京都の街や文化に触れながら公共経済学の知見を深め、全員で成長できることを目指しています。

茂見 岳志ゼミ

坂口 ひより

私たち茂見ゼミは総勢29人でメカニズムデザインを学び、活動しています。

2年次では、教科書を1人1章ずつ発表し意見交換を行い臓器移植のマッチングやオークションなどの事例をもとにメカニズムデザインの基礎を学びました。

3年次では、経済学部主催のビジネスアイディアコンテストとディベート大会に出場しました。今年度のビジネスアイディアコンテストは大丸京都店が運営するだいまるきょうとっこがくえんをオンラインを活用して面白くするということがテーマでした。対象者が上京区在住の親子ということで今まで知らなかった同志社大学周辺の魅力について学ぶことが出来ました。茂見ゼミからも2チームが予選を突破し本戦でプレゼンをすることが出来ました。ディベート大会では日本は有償のライドシェアサービスを全て合法化するべきかどうかについて討論をしました。ゼミ生のほとんどがディベート経験がなく苦戦しましたが、グループごとに協力し1チームが予選を突破することが出来ました。

これからは茂見ゼミで学んだことを就職活動や卒業論文に活かしていこうと思います。

新関 三希代ゼミ

磯部 奏斗

私たちは、新関三希代教授のご指導の下、Bloomberg投資コンテスト、日銀グランプリ、そして日経STOCKリーグの3つの活動を行いました。本年度のゼミ活動は、対面で実施できたものの、変則的な授業形式に苦心しましたが、新関先生の熱心なご指導や、社会でご活躍されるたくさんの先輩方のお陰で、大変充実したゼミ活動を行うことができました。Bloomberg投資コンテストでは、「世界の株式×ESG投資」というテーマのもと、論文を執筆しました。昨年度に続き、本年度も2位・3位入賞を果たしました。日銀グランプリでは、SDGsファンドを用いた政策提言を題材に論文を執筆しました。ゼミ活動として初の試みでしたが、優勝を収めることができました。日経STOCKリーグでは、法政大学とオンラインでインターゼミナールを行うなど、約半年間かけて論文を執筆しました。昨年度第21回大会では、大学部門賞と敢闘賞を頂きました。これからもゼミを支えてくださるOB・OGの皆様、何より新関先生に感謝の気持ちを忘れず、ゼミ活動に全力で取り組んで参ります。

西岡 幹雄ゼミ

重田 直人

私たちは西岡先生のご指導のもと、「地域の潜在価値の実現とそのための新たなインフラ展開～コロナ後の地域・都市と世界の方向～」をテーマに設定し、グループ研究を行いました。今年度は、新潟や京都、三重など特定地域に焦点を当てた研究や地域と関係が深い移住を題材とした研究を行い、他大学との交流会に向けた準備を進めました。昨年度に引き続きオンライン開催となった交流会ですが、学生同士での活発な議論や先生方から頂いたフィードバックによって、研究がブラッシュアップする貴重な機会となりました。

そして、コロナが一時的に落ち着いた12月には、リトリートセンターにてゼミ合宿を行うことができました。ゼミ生が各自の研究に関する振り返りや卒論の仮テーマを披露し、それに関する質疑応答を行うことで、各自の今後の方向性が明確化されたと考えます。

今後もコロナの状況が続くと思われますが、環境を言い訳にせず、取り組めることを全うし、地域経済学について学びを深めます。

奥田 以在ゼミ

田中 なつ

こんにちは。奥田ゼミ8期生です。私たちのゼミは京都の老舗と職人をテーマに研究を行っています。8期生は3つのグループに分かれて、「履物」「寿司」「鍛治」について研究しています。キャンパスを飛び出して、実際に現場に足を運び、職人さんからお話を伺っています。また、研究以外にもプロジェクト活動として、2回生に向けたゼミの説明会やゼミ生の交流を深める合同ゼミの運営など様々な取り組みを行っています。今年度は「大学生観光まちづくりコンテスト」に参加するなど、新たな取り組みにも挑戦しました。0→1を作り上げる難しさはあったものの、それ以上のやりがいや楽しさを感じることができました。振り返ってみると、今年度も新型コロナウイルスの影響により先行きが不透明な環境下ではありましたが、内容としては盛りだくさんで、とても充実した日々を送ることができました。これからもゼミ活動を通じて得た学びを生かしながら、ゼミ生一同全力で取り組んで参ります。

大野 隆ゼミ

杉本 咲葵

私たち大野ゼミは政治経済学をテーマに活動しています。大野ゼミでは、2年次論文・3年次論文・卒業論文と3度論文を作成します。私たち2回生は、テキストの輪読で政治経済学の基礎を学んだ後、現在3人一組で論文を作成しています。論文には明確なルートがないため、思うようにいかないこともありますが、その都度3人で話し合ったり、先輩や先生のアドバイスを頂いたりしながら、論文作成の感覚を日々磨いています。3回生は12月に6大学7ゼミ合同で行われたゼミナール大会に出場し、出場した3組中1組が優秀賞を受賞するという嬉しい結果を得ました。そして、4回生はこれまでの学びを生かし、一人で卒論を書き上げます。私たちは論文を作成することを通して、答えのないものに対処する力を得ました。そして、その力は論文と同じく明確な答えのない社会を生き抜くうえで支えになると確信しています。

これからも、学生に真摯に向き合って下さる先生、支えて下さる卒業生の皆様への感謝を忘れずにゼミ生一同ゼミ活動に励んでいきます。

小野塚 佳光ゼミ

宮本 翔

卒業生の皆様、こんにちは。小野塚ゼミは今も、国際政治経済学（IPE）をテーマに、グローバリゼーションを生きる我々が直面する多様な課題について、様々な論説等をもとに探究を続けています。

本年度は、D．ロドリック『貿易戦争の政治経済学』、P．コリアー『最底辺の10億人』を用い、各担当章について発表を行いました。また、小野塚先生のHP「IPEの果樹園」をはじめ、国内外のメディアを活用し、各自が関心を持ったIPEに関連する事象について調べ、まとめ、議論を行いました。

昨今の社会情勢の影響で、同学年内での交流も活発に行えない状況が続いていますが、楽しく活動しています。また、年度末にはZoomを活用し4回生の卒業研究発表会を開くことができました。

小野塚ゼミではこれからも、IPEを主体的・対話的に学び、現代経済の課題を探究してまいります。

末筆ながら、卒業生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

太下 義之ゼミ

伊藤 真理子

こんにちは。太下ゼミ二期生です。私たちは、新たに三期生15名を迎え、総勢28名で主に文化政策の研究を行なっています。研究対象としては、創造都市、食文化、芸術の独立性、観光、デジタルアーカイブ、クリエイティブクラス等が挙げられます。これらに関連する文献を読み解き、ディスカッションを行うことで、多角的な視点を得ることはもちろん、自身の考えをより一層深める機会ともしています。残念ながら、昨今のコロナウイルスの流行により、計画していたフィールドワークは実施できなくなってしまいました。しかし、他人の意見に耳を傾け、理解を深める力こそ、オンラインが主流となる、これからの世の中でより求められる力であると考えます。太下ゼミには、多様な趣味、バックグラウンドを持つメンバーが集まり、知見を共有することでその力を十分に培っていると思います。二期生は就職活動に並行して、各自卒業研究に取り組んでいくことになりますが、先生のご指導のもと、密度の高い研究になるよう取り組んでいく所存です。

田中 靖人ゼミ

中塚 晴斗

私たち田中ゼミは、学生自らが考え行動する学生主体のゼミです。言い換えるなら、経済学部のベンチャー企業とでもいうのでしょうか。授業内容、進行、年間スケジュール等全てをゼミ生同士が話し合って決め、授業を展開しています。やりたいことにはなんでも挑戦できるし可能性は無限大です。今年度も授業以外の課外活動が盛んに行われました。全国から479名の学生が参加した「WEST」制作論文大会の運営・執筆、フリーペーパー「Re：quest」の作成などです。WESTについては、今年度もオンラインの開催となってしまいましたが、東は千葉大学から西は山口大学まで幅広い地域からご参加をいただきました。論文大会という非常に難しいプロジェクトに、全力で取り組むことで、普通の大学生では経験することのできないような体験をすることができました。フリーペーパーについても現在多くのご協賛をいただき進行中です。私たちは田中ゼミで、他のゼミとは一味も二味も違う面白い体験と成長を積むことができました。

角井 正幸ゼミ

原山 鈴音

私たち角井ゼミは、「アメリカにおける経済問題の実証分析」を演習のテーマとして活動しています。2年次にはExceｌを用いてデータ分析を行い、アメリカの経済について考えました。3年次には、ピケティ氏の『21世紀の資本』からアメリカ経済がどのようにして発展したかについて学び、また伊東光晴氏の『ガルブレイス』を通じて、ガルブレイス氏の述べたアメリカの資本主義の本質について学びました。そして、現在はそれぞれの研究テーマに基づいて卒業研究を進めています。

また授業では、上記のテーマについてプレゼンを行い、先生からそれぞれに足りないプレゼンのスキルを指導していただき、さらなる向上を目指して日々励んでいます。新型コロナウィルスの影響でゼミ活動が制限されることもありましたが、オンラインを通した交流など今までに無い経験をし、対面で授業ができることの喜びを感じ、ゼミ生同士の交流の場や時間を大切にできたと思います。これからのゼミ活動や就職活動でも、お互い切磋琢磨しながら取り組んでいきたいと思います。

上田 曜子ゼミ

山根 吉平

上田ゼミでは開発経済学をテーマにし、開発途上国の貧困解決を目的として、工業化政策、所得分配、人的資本の形成等の経済発展に伴う種々の問題について分析し、途上国の経済発展を促進するための方策について学んでいます。普段の授業では教科書を用いてグループワークを行い、設問に対して個人の意見を出し合いながら議論・発表しています。またその意見に対して上田先生から質問を受け、考えを深めています。2回生は秋学期にゼミ内でディベート大会を行いました。3回生はWEST論文研究発表会に2チーム出場し、賞を取ることは出来ませんでしたが、半年間の研究を通して思考力や文章力、プレゼンスキルを高めることが出来ました。4回生は卒業研究に日々励んでおります。今年もコロナウィルスの影響でゼミ活動にも制限がありましたが、各学年がそれぞれの活動に打ち込んだことで、実りのある1年となりました。

和田 喜彦ゼミ

山下 大輔

私たち和田喜彦ゼミでは、地球の生態系と経済システムの関係性を総合的に捉えるエコロジー経済学を基盤に、持続可能な社会の在り方について考えています。私たちは、現在4回生12名、3回生16名、2回生18名で活動しています。社会的課題としてSDGsが大きな注目を集めるようになった現在、それに触発されるように、私たちゼミ生も活気に満ち溢れた研究活動を行っています。今年度の活動例として、同志社大学へのウォーターサーバー設置プロジェクトがあります。マイボトルを普及させ、ペットボトルの利用・廃棄量を削減することを目的としたこのプロジェクトですが、植木学長にもご理解を賜り、大学と連携して実現に向けて前向きに動いています。他にも、6大学合同ゼミや第3回SDGs日本政策学生研究会に参加し、他大学との交流を通して知見を深めたり、ビジネスアイデア大会に参加して決勝に進出したりするなど、和田先生のご指導の下で伸び伸びとゼミ活動を満喫しています。

和田 美憲ゼミ

難波 克仁

こんにちは、私たち和田美憲ゼミ2回生は、現在21人で活動しており、今は行動経済学の研究を行うための基礎となる勉強を重ねています。秋学期では行動経済学とはどのようなものであるかを学び、そして研究の結果を証明するための心理学統計を学びました。行動経済学を身近に感じられるようにと日々、和田先生は楽しい授業を行ってくださっています。例えば、みなさんが知っているような恋愛ソングの歌詞から、人間の非合理的な考えや行動を見つけ、なぜそのような行動をとってしまうのかを、行動経済学の用語を用いて考えていくといった授業を行っています。このような授業を通して、行動経済学という学問が日常のなかに潜んでいることを実感できます。このご時世であるため、様々なイベントに制限がかけられてしまっていますが、ゼミ生で話し合いこれから様々なイベントを行えるようにと計画を立てています。「コロナがなければ…」とゼミが終わった際にゼミ生みんなが思わないように、行動経済学を熱心に探究し、イベントを思いっきり楽しめるゼミになるよう活動していきます。

山森 亮ゼミ

林 麟太郎

2021年度の山森ゼミでは、「No one will be left behind」をスローガンに、連帯経済や社会政策について研究しています。ゼミ生は社会問題に関心を持つ人が多く、資本に拘泥されないより善い生き方、より善い社会について日々議論しています。

例年山森ゼミでは現地調査を重視し、多くのフィールドワークを行ってきました。令和3年度はコロナ禍で現地に赴くことが難しくなりましたが、オンライン化によってより多くの方々にお話を伺う機会を得ることができました。特に「香害」と呼ばれる、洗剤や柔軟剤の人工的な香りによって健康を害されている方へのインタビューでは、我々が普段使っているもので苦しんでいる方がいるという現実を知りました。

香害の例のように社会に苦しみを強いられている人々を解放し、その能力を発揮できる社会こそが「より善い社会」ではないでしょうか。我々ゼミ生は、各人の「より善い生き方」を増幅させていくことが「より善い社会」を創造していくと信じて、今後も研究に励んでいきます。

横井 和彦ゼミ

今村 則久

中国経済について研究をしている横井ゼミは、他のゼミに比べて大人数であるため、さまざまな価値観や意見を持った学生がいます。中国経済について議論する際、2年次と3年次のグループワークでは多種多様な意見が飛び交い、これらをまとめるための力として意見を発信する、考える力を身につけることが出来ました。3年次後半ではグループごとに対中ビジネスバーチャルカンパニーを設立し、企業を運営する大変さを学ぶことが出来ました。

どのようなことでも親身に聞いて頂ける先生だとOB・OGから聞いており、本当に優しい先生であったと感じました。しかし、私たちの代では、学生生活の半分がコロナ禍ということもあり、今までの飲み会や対面での授業などは少ない状況下にありました。そんな中でも先生は学生一人一人とのコミュニケーションを常に大事にしてくださり、就職活動や恋愛の相談など、親交を深めることを大切にしてくださいました。学生を大切にしてくれる横井先生だったからこそ、コロナ禍でも充実した学生生活を送ることができました。

人を大切にする横井ゼミがこれからも引き継がれていくことを心から願っております。

四谷 晃一ゼミ

稲上 奨梧

私たち四谷ゼミは「人的資本（教育）の経済分析」をテーマに取り組んできました。人々の能力というものは様々な教育の形態を通じて形成されています。人々が身につける能力は家庭や地域環境、教育を供給する側の行動、社会でどのような能力が必要とされているなど多くの要因が影響を与えています。私たちはこれらの要因について三年次まで輪読によって理解を深めてきました。輪読以外にも春学期にはビジネスアイデア大会、秋学期にはディベート大会に参加しました。ノウハウがほとんどない中、ゼミ生が主体となって話し合い、一定の成果を出したのは私たちにとって大きな収穫でした。他の学年との交流、四谷先生の誕生日会を開くなど私たちのゼミは全員の仲が良いところが一番の長所です。コロナ禍により一時期はオンラインでのゼミ活動となりましたが、初めての試みを数多くできた充実した一年になりました。

HP広告掲載

同経会では、学部の卒業生にさまざまな情報をリアルタイムで発信していくため、ホームページを運営しております。2013年12月にホームページを全面的にリニューアル、2014年5月からはスマートフォンやタブレットへも情報提供できるようシステムを構築しました。

そのホームページを維持、更新していくため、バナー広告、同経会サポーティングカンパニー（同経会SC）広告を出稿してくださる法人様個人様を随時募集しております。

つきましては、趣旨にご賛同いただき、引き続き広告掲載を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

広告の掲載要領、広告料金など詳しくは事務局までお問い合わせくださいませ。

お問い合わせ先：京都市上京区今出川通烏丸東入ル
同経会事務局 TEL：075-251-3524

訃報

同経会顧問（元副会長、専務理事）中嶋 利宗 氏
（昭和40年卒 大阪ダイヤモンド地下街 元取締役社長）
が2021年10月25日に永眠されました。

中嶋氏は2006年～2010年まで同経会の執行理事を、2011年～2015年までは専務理事、2016年～2019年までは副会長、2020年～は顧問にご就任いただき、長きに亘り同経会にご貢献いただきました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

コロナ禍のため行事が行えないままに、2年が経ちました。会員の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。

昨秋、落ち着かぬ日々が続く中、対面でのインタビューはご迷惑にならないか案じながらも、今だからこそ是非お話をお伺いしたいと、大宗匠・千 玄室様にお願いを申し上げました。有難いことに、すぐに快諾のお返事を賜り、今年1月、今日庵に伺わせていただくことになりました。

迎えた当日、仄暗いお茶室の中、凛とした空気に緊張感が高まります。お心尽しのお茶とお菓子を美味しくいただいた頃には、少し和らいだ心持ちになりました。

同志社とのご縁をお伺いすることから、インタビューが始まりました。新島先生との交わり、ご幼少の頃のこと、学生時代のお話、ご卒業後のご活躍などを拝聴させていただいた貴重なお時間でした。

戦後、国民の努力により、我が国は目覚ましい発展を遂げてまいりました。しかし、昨今、それを支えてきた日本の良さに陰りが見えているように思われます。混沌とした時代に、我々は何を心の拠り所として生きてゆけば良いのか。今回のインタビューに、私はこの答えを求めていました。

大先輩のお答えは明快でした。新島先生の教えの中にこそ、それがあると。今一度、原点に立ち戻ることの大切さを痛感致しました。

インタビュー後の記念撮影は、「兜門の前で」とおっしゃって下さいました。77年前、軍刀をおいて土下座をなさった、その門の前です。なんとも勿体なく、恐れ多い、時代を感じる撮影となりました。緊張が解れない私達に、終始にこやかにお話下さり、ご教示・ご鞭撻賜りました、千 玄室様に、心より感謝申し上げます。有難うございました。

(右から)鍵 圭一郎専務理事、中島 信幸総務・支援委員会委員長、千 玄室様、中谷 豊美広報・HPチーム長

お陰様で、第88号も無事発行の運びとなりました。ご寄稿・ご協力いただきました皆様、有難うございました。

次号発行に向け、ご意見、アイデアなどがございましたら、事務局までお寄せ下さいませ。お待ちしております。

（広報・HPチーム長）

同経会・公式Facebookページ開設

【 アドレス・QRコード 】

https://www.facebook.com/dokeikai.doshisha/

【 同経会HPアドレス 】

https://www.dokeikai.com/

お持ちのスマートフォンのカメラで、QRコードを読み込んで「いいね!ボタン」を押してください!

公式WEBサイトの更新情報、同経会で開催されるイベントをリアルタイムで発信・お知らせ致します!経済学部卒業生の方は、是非ご登録ください!

同経会役員名簿

2022年4月1日現在

役名	委員会	氏　名	卒年
名誉会長		小嶋　淳司	S37
名誉会長		服部　盛隆	S41
顧問		千　玄室	S21
顧問		辻本　光彦	S25
顧問		川勝　泰司	S28
顧問		秋山　哲	S32
顧問		井上　礼之	S32
顧問		中野　淑夫	S32
顧問		福井　正憲	S33
顧問		播島　幹長	S33
顧問		森本　弘道	S34
顧問		細見　吉郎	S34
顧問		西口　廣宗	S34
顧問		岩崎　隆	S35
顧問		吉田　忠嗣	S35
顧問		北尾　哲郎	S46
顧問		村田　恒夫	S49
顧問		八田　英二	特別
顧問		宮本　大	特別
会長		田堂　哲志	S52
副会長		渡邉　隆夫	S37
副会長		高木　壽一	S39
副会長		岡田　博邦	S46
副会長		昌尾　一弘	S46
副会長	会員増強委員会担当・委員長	小川　佳秀	S50
副会長	財務委員会担当・委員長	小平 真滋郎	S55
副会長		河合　一郎	S55
副会長	総務支援委員会担当	荒木　勇	S59
副会長	企画委員会担当・委員長	中村　恭俊	S60
専務理事		鍵　圭一郎	H1
監事		小杉　將之	H1
監事		横田　聡	H3
執行理事	総務支援（総務）	小林　敬三	S38
執行理事	会員増強（東京）	濱田　浩實	S40
執行理事	総務支援（つどい）	山本　忠男	S40
執行理事	会員増強（東京）	辻川　茂樹	S42
執行理事	総務支援（つどい長）	近藤　和夫	S44
執行理事	会員増強（東京長）	高橋　健治	S44
執行理事	企画	立木　貞昭	S44
執行理事	総務支援（つどい）	松井　信五	S45
執行理事	総務支援（つどい副）	今出　健一	S46
執行理事	会員増強（大阪）	志賀　茂	S47
執行理事	会員増強（名古屋長）	萱原　昇	S49
執行理事	総務支援（名簿長）（つどい）	西村　猛	S49
執行理事	総務支援（つどい）	松尾　卓志	S49
執行理事	会員増強（大阪）	岸田　博	S50
執行理事	総務支援委員長	中島　信幸	S50
執行理事		吉田　誠吾	S50
執行理事	総務支援（総務）	奥　敏郎	S51
執行理事	総務支援（つどい）	長田　宏	S52
執行理事	会員増強（大阪副）	新村　明男	S53
執行理事	会員増強（大阪副）	早瀬　孝行	S53
執行理事		松谷　哲	S53
執行理事	総務支援（つどい）	谷村　俊治	S54
執行理事	総務支援（広報長）	中谷　豊美	S54
執行理事	企画	村田　市郎	S54
執行理事		山添　俊之	S55
執行理事	総務支援（総務）	高田　啓史	S56
執行理事		牧野　正裕	S56
執行理事	会員増強（京都）	宮村　定男	S56
執行理事	総務支援（インターンシップ）	吉井　英雄	S57
執行理事	会員増強（大阪長）	土橋　純二郎	S58
執行理事	企画	中野　耕太郎	S58
執行理事	総務支援（総務）	若田　昌宏	S58
執行理事	会員増強（東京副）	阿部　聡一	S59

役名	委員会	氏　名	卒年
執行理事	総務支援（インターンシップ）	鎌田　伸一	S59
執行理事	総務支援（総務長）	藤井　宏樹	S59
執行理事	会員増強（東京）	末永　雅春	S60
執行理事	企画	久保　行央	S61
執行理事	企画	齋藤　斎	S61
執行理事	会員増強（大阪）	佐野　克也	S61
執行理事	企画	松井　勝史	S61
執行理事	会員増強（大阪）	小原　康正	S62
執行理事	会員増強（京都）	山下　泰生	S62
執行理事	会員増強（京都）	遠藤　裕策	S63
執行理事	企画（副）	沼井　哲男	S63
執行理事	会員増強（しめた）	前田　敦	H2
執行理事	会員増強（大阪）	山神　孝志	H2
執行理事	企画	川井　成人	H3
執行理事	会員増強（名古屋）	川津　智典	H4
執行理事	会員増強（しめた長）	齊藤　賢一	H4
執行理事	会員増強（大阪）	清水　友紀	H6
執行理事	会員増強（しめた）	高木　伸浩	H6
執行理事		伊藤　弥生	H7
執行理事	会員増強（大阪）	植田　健一	H7
執行理事	会員増強（名古屋）	近藤　裕幸	H7
執行理事		太田　亮士	H8
執行理事	会員増強（東京）	志井　慶吾	H9
執行理事	会員増強（大阪）	馬場　圭吾	H12
執行理事	会員増強（しめた）	廣石　佑志	H13
執行理事	会員増強（しめた）	中元　栄智	H14
執行理事	会員増強（大阪）	八木　香織	H14
執行理事	会員増強（大阪）	山口　貴司	H15
執行理事	会員増強（しめた副）・総務支援（HP長）	三輪　幸徳	H22
執行理事	会員増強（しめた）・総務支援（HP）	小垂葉　亮	H23
執行理事	会員増強（名古屋）	関本　駿	H24
執行理事	会員増強（しめた）・総務支援（HP）	橋本　義彬	H26
執行理事	会員増強（しめた）	小寺　友樹	H26
執行理事	会員増強（しめた）	熊田　里沙	H27
理事		橋本　久幸	S38
理事		那須野　昌司	S39
理事		山本　清	S40
理事		田島　繁	S41
理事		西畑　義昭	S41
理事		大江　美智子	S42
理事		高橋　修	S44
理事		田島　和憲	S45
理事		饗庭　一慶	S46
理事		池田　博義	S46
理事		杉田　啓三	S46
理事		吉田　進	S46
理事		岩崎　寿太郎	S49
理事		山本　源兵衛	S49
理事		神山　研一	S52
理事		石塚　清司	S53
理事		光田　周史	S54
理事		前川　宗博	S55
理事		塩川　雅之	S59
理事		西村　裕子	H8
理事		塚崎　幸司	H11
理事		西田　憲弘	H15
理事		大谷　淳子	H16
理事		伊多波 良雄	特別
理事		鹿野　嘉昭	特別
理事		北川　雅章	特別
理事		竹廣　良司	特別
理事		新関 三希代	特別
理事		谷村　智輝	特別
理事		横井　和彦	特別